帰属意識

随　筆

溝口　正*

A sense of belonging

Key Words : multiple day workshop　yoshimoto amateur theater　mock lecture

はじめに

縄文時代，弥生時代の歴史を遡るまでもなくわれわれは大和民族である．現代の日本社会の一員として存在するわれわれは紛れもなく日本人である．世界における活動もまた日本人として扱われるし，それを自覚する必要があろう．不用意な行動をしたとすればその後始末は日本社会全体が負うことになる．予期せぬ事件が引き起こされ，その度に当人達の帰属意識の欠如を痛感する．筆者は勤務する当該大学において帰属意識を持ち続けているが以下その例を述べてみたい．

宿泊研修

「先生これから溝口ドクトリンを話そう．」毎年新入生宿泊研修(図１－冊子表紙の自筆スケッチ)が実施されるが本年の切り出し口上である．

「皆，寝ているとき手，腕をどのようにしているのかな．睡眠は体を休める時間であるから手，腕の位置だって休めるのに良いポジションがあるはずだ．人指し指と親指を軽く楕円をつくるようにして出来た面を腰，あるいは骨盤に添える．これが究極の安眠状態，実はその格好で腕を少し，前に出してみる．この姿，何か思い当たるものはありませんか．

そうです，幽霊の格好ですね．つまり，幽霊の仕草は人間現世のもっとも寛ぎの姿勢なんです．」「この話を聞いてくだらねえ という人は先生相手にしない．信じられない，うそでしょう，そんな馬鹿なという人，先生は大いに歓迎だ．自分の最高の癒しの姿勢を自ら探そうではないかと考える人先生はもっとも嬉しい．物事に興味をもつ，好奇心をもつ．そこには驚きと感動がある．これをびっくり学問と呼んで溝口ドクトリンにしている．」

図１　冊子表紙に自筆スケッチ

１万円札を財布から取り出した．先生が大学を卒業した年昭和33年(1958年)今から46年前に初めて印刷，世に出たのがこの１万円札．現代の貨幣価値に換算すると約８万円に相当する．地下鉄，御堂筋線 淀屋橋下車，徒歩５分の所に高層ビルの谷間に古びた日本家屋がある．その名を適塾とよび日本の史跡(歴史の跡)として大切に保存されている．何故だろうか，江戸時代後期，全国の藩では学校が開設されたが，大阪には藩校がなかった．この適塾は藩の学校とは異なり，お医者さんが私財を投じて創設した．医学のみならず，西洋学問を志す若者を受け入れて熱心に指導した．有名な緒方洪庵の適塾である．

* Tadashi MIZOGUCHI
1935年10月生
大阪大学大学院・薬学研究科・博士課程終了
現在，大手前大学・社会文化学部・人間環境学科，教授・学生部長，薬博，生物化学(現在，食環境)，大阪大学名誉教授(薬)
TEL 072－770－6334
FAX 072－770－6916
E-Mail mizo-guti@otemae.ac.jp

全国から若者が集まってきて適塾の２階の大広間に寝起きを共にして学んだ．緒方洪庵は様々な学問に興味を抱くように教育した．若き塾生たちは西洋の学問に強い好奇心を持つようになり，数少ない辞書を取り合うようにして勉強した．大阪の風土が育んだ市民的自由の雰囲気が学問の府を成功させた．その数1000人にも達していたが幕末から，明治時代にかけて活躍する人材が多く輩出した．その一人に福沢諭吉がいて学問のすすめを著した．天は人の上に人を造らず天は人の下に人を造らず，しかし，偉い人もあればそうでない者もいる．その差は勉強する，しないにかかっている．抽象論は一つもない．すべて，現在および未来への具体的・実践的提言である．

先生は年に何回か東京へ出張するが，早朝，新大阪駅の中二階に何人か野宿者(宿無し者)を見かける．薄汚れた服装に帽子を深く被って，ダンボール紙を開いてマット代わりに寝転んでいる．東京の新宿西出口にバスの発着場のサークルがあるが，小田急デパート前が格好の陽だまりになっていて，ここにも何人かの野宿者を見かける．何をするでもなくうつろな目で長い時間を過ごす．先生も，騙しや詐欺に遭って，身寄りもなく無一文になったらここを棲家にするかもしれない．しかし，先生は無一文になって野宿者(宿無し者)になるとしても，彼らとは違う．それは体の許す限り世の中の人々に貢献できることを探しだし実行したいという気持ちを持ち続けられるからである．社会の一員であることの自覚，世話になった社会に対し，これからも生きて行くだろう社会に対して出来る得る行動を続ける．それが帰属意識である．以上宿泊研修で学生に聞かせた話題である．

模擬講義

阪急京都線沿線のある高校から講義の依頼がきて当該大学から選ばれて出張講義に出かけた．参加大学は23校であり，大阪大学からも理学部教授が参加された．勿論各大学の講義課題は担当教授のレパートリー内で選択されたと理解している．当該大学は文系であることを鑑み，自分の専門，生物化学を離れ「食環境論」をテーマとして出張講義用エントリーシートに登録しておいた．高校から講義依頼もそのエントリーシートに則って指名されたようであった．情報，経営，史学，教育，文芸等にまじって「食環境論」はマイナーテーマであることを実感した．ひとこま講義でいいはずのところ，２こま講義の要望があったことからそれなりの期待があったようである．初めに各大学の教官が一堂に集まって相互に紹介され，高校の依頼趣旨を聞く．教室へ案内する教官も男性ならば受講生も２クラスとも男子生徒が大部分を占めた，意外な思いで講述をはじめる．

日常生活の中で楽しく寛ぐ場が食卓を囲むひと時である．摂食はゆっくり時間をかけてコミュニケーションを図る場でもある．コンビニエンスストアや，ファーストフード，スーパーマーケットの繁盛振りから推察できるように即製食品を購入して一人で食べる生徒も多かろう．食の簡便性，合理性に支配されては本来の豊かな食事は生まれない．孤食で象徴されるように好ましくない現代の食生活を見直す必要があることを述べた．終わりに生徒に告げた．「おっかー，今朝の味噌汁おいしかった」と．男子生徒を前にしたとっさの言葉である．唯の一度だけでもいい，この言葉を母親に聞かせてあげて欲しい．出張講義に参加して食物への感謝の念をもってほしいと生徒達に期待したことである．

吉本小劇場で共演

ユニークな出来事が私を待っていた．当該大学の学園祭で催し物「誘致イベント吉本小劇場」(図２－左から島木譲，吉田ヒロ，筆者，うしろ島田一ノ介)に飛び入りで出演したことである．島田一の介，吉田ヒロ，島木譲らと共演できたのだから驚きである．毎年当該大学では学生主導の学園祭実行委員の要望

図２　吉本小劇場(学園祭)

を受け入れ予算の許す限り誘致イベントを了承している．平成15年度は吉本小劇場の２時間公演であった．学生数人と教員２人の共演が吉本小劇場のプロジューサーから依頼が来ていた．学生は出演希望者が抽選するほどに多いのに反し教員は学生部長の私ひとりが出演することになった．学園祭の総責任者であるからである．開演２時間前からシナリオの読み合わせと舞台振り付け(動作)練習である．アドリブで対応できると踏んでいたらとんでもない．付きっ切りで延々プロジューサーから指導をうけ，何度となくセリフの暗誦を強要された．励ましか，諦めか，どちらともつかぬ言葉，「大学の先生はまじめにリハーサルに取り組んでくれるが雰囲気がでない．」を聞かされて２時間の予行を終えた．本番は開き直おれて，セリフも順調に口をついて出た．スナップ写真を見る限りそれなりに役柄をこなしたと思っている．吉田ヒロ演ずる暴走族が当該大学の卒業生である実の姉に何かと迷惑をかけるので，その相談に乗り，かつ暴走族を立ち直らせるというストーリであった．演劇終了後，出演学生，と私，それに吉本小劇場の出演者全員がそろって壇上で互いに言葉を交わす機会が持たれた．その時吉本小劇場出演者の中に汗している者を見てプロの熱演が伺え，ほのぼのとした気持ちになった．

キャンパスクリーンキャンペーン

当該大学ではキャンパス内のみならず周辺住宅地にわたってタバコの吸殻，ごみ，空き缶等を拾い集める，いわゆる清掃推進運動が月２回実施されている．各種クラブ，サークルに混じってさわやかキャンパス推進協議会があり，この団体が主体となって昼休み時間に全教員(出勤者)および一部の学生が参加して行うものである．事務職員にも加勢してもらう．このサークルの顧問教員は学生部長なので私の不参加は許されない．４年前，会を立ち上げた時，幟まで作って学生と一緒に近くの駅前(図３，駅前で学生と共に，左３人目筆者)に立つて「クリーンな街にご協力下さい．」と呼びかけた．市の生き生きクラブの人々と合流し，交番の警官，電鉄会社の職員から激励をもらったりした．しかし，キャンパス内では決められた場所以外での喫煙，ポイ捨てが無くならない．

図３　クリーンキャンペーン

阪大キャンパスのゴミ箱設置の有効性がテレビ映像で紹介され感心したものである．キャンペーンの日は学生と一緒にごみ入れバケツをもって歩くのでキャンパス内を歩く学生部長はいまや周知の事実となった．

おわりに

様々な任務を経験し，その度に新たな生きがいが与えられて当該大学勤務の幸運を喜ぶ．この原動力はささやかであるが自ら実行できる最大のモチベイションによるものと心得る．当該大学に在籍しているという自覚，職場である当該大学への帰属意識が自らをして行動させていると実感している．